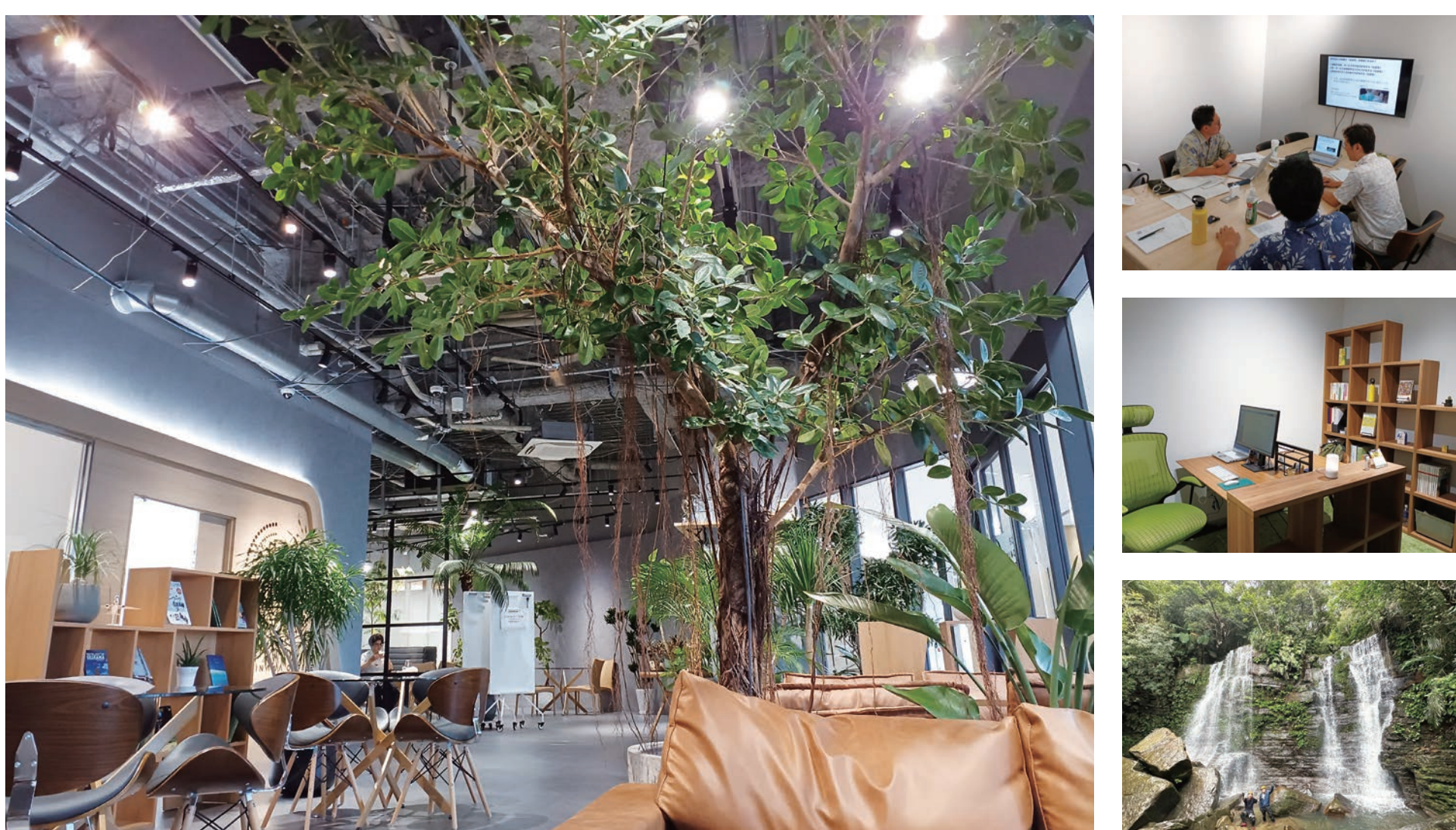


おきなわ サステナラボの 活動報告

2022年、公益財団法人日本交通公社では、
現在、東京・青山に構える本部事務所以外としては初めての地域事業所となる
「沖縄事務所(おきなわサステナラボ)」を設置しました。
開設以降、サステナラボでは、サステナブルツーリズムをキーワードに、
「沖縄観光の復興と持続可能な発展の支援」、
「サステナブルツーリズムの推進現場での研究・調査の実践」、
そして「サステナブルツーリズムを実践する人と知見の
プラットフォームづくり」を目的に活動を行ってきました。
なかでも、客観的な知見の蓄積に基づいた理論を基にした
多くの“実践”の場をつくり上げていくことは
私たちにとって大きなミッションであり、チャレンジでした。
多くの“実践者”の元を訪ねて、現場を見て、議論をおこなってきた
3年間の活動の中から一部を紹介します。



県内の先進事例をたずねる

Us 4 IRIOMOTE

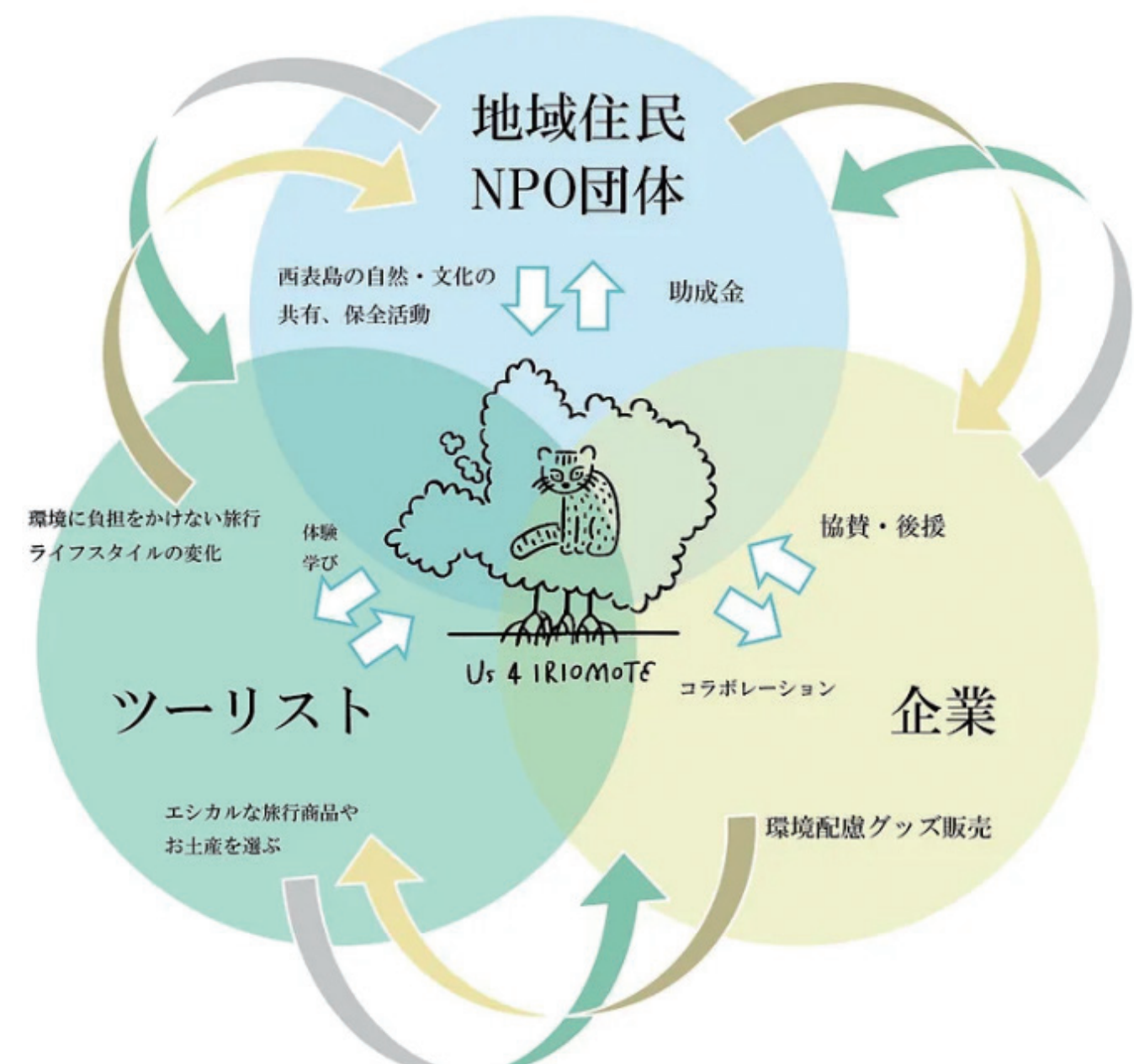
「西表島の明日のために私たちが できること」

「Us 4 IRIOMOTE」は、フットウェアブランドのキーン・ジャパンが発起人となりスタートしたプロジェクト、および同名の基金。「エシカルな旅」をキーワードに、西表島のNPO活動のサポートやマナー啓蒙、新たなツアープログラムの造成などを行い、観光客の旅先での行動と意識の変革を目指しています。

このプロジェクトは、キーン・ジャパン代表が西表島を訪れた際に島の自然と文化の豊かさに感動し、その保全・継承に貢献することを目的として始まりました。

プロジェクトでは、現地の人々と対話を重ねながら次世代に繋ぎたい西表島の姿を記録し、訪れる観光客にも島の自然、文化、暮らしへの理解を深めていただくためにラジオや映画として発信しています。

これらの取り組みを通じて、西表島における自然保護、文化継承と持続可能な観光のあり方を共創し、地域と観光客が共に価値を高め合う仕組みづくりを模索しています。



(株)ラグーン

「エシカルチケットが 創るやさしい未来」

(株)ラグーンは恩納村でダイビング事業を展開し、「持続可能な環境」と「持続可能な企業」を目指しています。同社はSDGsやエシカルへの取り組みを重視し、グリーンフィンズ認定ショップとしてサンゴ保全やビーチ清掃活動などを実施しています。特に「サンゴ苗作り体験」など、自然に配慮したツアーを提供し、適正価格で質の高いサービスと労働環境の向上を図っています。

また、1万円の「Lagoon family」というエシカルチケットを販売し、環境保全や若者支援の資金に充てています。このチケットの購入者はツアー割引などの特典を受けられる一方、ビーチ清掃活動の費用にも貢献で

きます。スタッフが清掃を通じて環境意識を高め、自主的な行動に結びつく効果もあります。

同社は「人と自然の豊かさ」を重視し、利用者との心のつながりを大切にしており、取り組みを通じて、エシカルな行動が広がり、優しさの循環が生まれています。



竹富町自然観光課

「またねっ！ と、 言いたいから。」

竹富町自然観光課は2023年秋から、「またねっ！ と、言いたいから。」をキャッチフレーズに観光客向けの普及啓発活動を行っています。町民や事業者へのアンケート結果から、「観光客がコロナ禍前より増えなくてもよい」という意見が多く、観光客に対するネガティブな印象が浮き彫りとなりました。これを受け、行政は町民・事業者と観光客が望ましい関係を築くため、「責任ある観光」を推進するウェブサイトを開設しました。キャッチフレーズには、観光客と町民が互いに理解し、責任ある行動を通じて「また訪れたい」「また来てほしい」と思える関係を目指す願いが込められています。竹

富町が単なる観光地ではなく、住民の生活の場であることを伝えるため、島の暮らしに共感を呼ぶ情報発信やブランディングにも力を入れています。この取り組みは、観光地と地域社会が共存する新たな観光モデルを目指しています。



竹富町へ訪れる方へ

「責任ある観光（レスポンスフルツーリズム）」とは、観光客が自身を「ツーリズムを構成する重要な要素の一つ」と捉え、旅行先の地域や環境に与える影響に責任をもち、配慮することで、よりよい観光地をつくり上げようという動きです。

竹富町では、毎年多くの観光客が来訪しており、観光が町を支える産業である一方で、環境や暮らしへの負荷も発生している為、これらに配慮した行動を心がけていただく「責任ある観光」を呼びかけています。

「またねっ！ と言いたいから。」という言葉にあるように、観光客が我慢するだけでなく、楽しむ、持続可能な新しい観光の可能性について模索しています。

我慢するのではなく、自然や文化を体験し、「知る」ことで生まれる1人1人が定義する「責任ある観光」を推進しています。

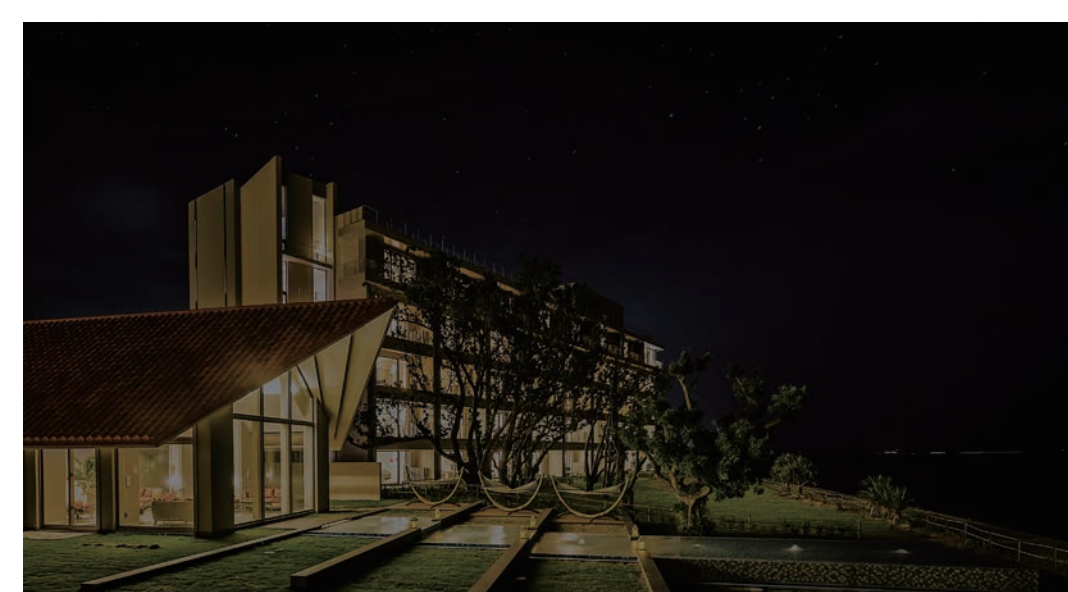
石垣島ビーチホテル サンシャイン

「しゃにしゃに 星空ツアー」

石垣島ビーチホテルサンシャインは、竹富島を望む海岸線近くに立地し、星空観賞に最適な場所です。総支配人の赤城陽子さんは、この星空を観光資源として活用しようと活動を開始しました。当初は夕食時の案内から始めましたが、現在では星空専門ガイドや地域振興会と協力し、ホテル敷地内で誰でも参加できる星空ツアーを提供しています。

ホテルの客室棟は光害に配慮した設計が特徴で、外灯には笠をつけて光の漏れを防ぎ、夜空の暗さを保ち

ながら星空や、月明かりを頼りに行動するウミガメ、光を苦手とするホタルが暮らす環境を守ることにつながる他、照明効率がアップすることで省エネルギーにもつながっています。また、啓蒙活動の一環として地元の方を招いて星にまつわる八重山古典民謡とのコラボツアーを開催したり、環境省や石垣市・竹富町などと連携し、地域全体での星空の保全と観光活用にも取り組んでいます。



琉球弧SUMMIT in 南城市2024の開催

2023年9月初旬、おきなわサステナラボでは、地域(シマ)間交流イベント「琉球弧SUMMIT in 南城市2024」を開催しました。このイベントは、島で暮らし続ける術(すべ)、観光との関係性の持ち方について、(我々のようなコンサル・シンクタンクが用いる)都会のロジックを押しつけるのではなく、島同士の対等な関係性の中で、同じ風土・文化圏を持つ琉球弧の中で各島のノウハウ、あるいは課題をシェアし、学び合う場として設定しました。

参加者への呼びかけは、テーマと日付・場所の設定のみで、渡航費用等は全て自前でとお伝えしたかたちですが、結果的には15の島々から30名の参加者が集まりました。2日間の開催期間中に、各地での取り組み内容がシェアされ、琉球弧における島々の今後のあり方へと議論が展開されていき

ました。

『森をつなぐ緑の回廊が無ければ、移動する鳥や小動物、昆虫が減り、森の生命力は極端に小さくなる。島同士にも同じことが言えるだろう。島同士のつながりを取り戻し、さらに新たな回廊でつなぐことで、琉球弧という強い多様な生態系・生物群集を、再び構築できる時代が見えてきたように思う。そんな心強い仲間達に出会うことができた琉球弧サミットでした。』

こちらは、ある参加者からもらった琉球弧SUMMIT参加後のメッセージです。今まさになくなっていく有形・無形のシマの風景。それらをビジネスの力を使いながら、自分たちが暮らしながら、次世代の子どもたちにつなげていくため、連帯のためのプラットフォームとして、サステナラボではこれからも活動を続けていきたいと思えます。



「琉球弧SUMMIT in 南城市2024」

主催……琉球弧SUMMIT 実行委員会

事務局…公益財団法人日本交通公社・
おきなわサステナラボ

協力……ウェルネスリゾート沖縄休暇センター、
ユインチホテル南城、株式会社さちばるの庭、
南城市久高区

後援……南城市役所



〈プログラム〉

- 9/8(金) <13:30~15:05>
SUMMIT プログラム① @南城市役所
-Session: 1 「イントロ/島プレゼン/グループワーク」
<15:15~17:00>
SUMMIT プログラム② @南城市役所
-Session: 2 「全体討論/1日目まとめ」
<18:00~20:30>
交流会@さちばるの広場
- 9/9(土) <08:30~09:30>
SUMMIT プログラム③ @ユインチホテル南城
-Ending Session「SUMMIT One“1”に向けて」
<10:00~17:30>
SUMMIT プログラム④ @久高島
-視察(島内観光、地産弁当ランチ、島人による講話 等)